

平成 21 年 9 月 13 日

関東ラグビーフットボール協会
普及育成委員会スクール中学生担当委員各位
管下スクール中学生部門責任者各位

普及育成委員会委員長
仲村 清弘

新型インフルエンザが流行しています。拡大を防ぎ選手の健康状態を良好にすることで健全なラグビー競技活動を継続できるよう履行してください。

日本ラグビーフットボール協会、関東ラグビーフットボール協会からの通知・通達を準拠し、その上で今年度は以下のガイドラインに従って大会運営をいたします。下記について関係チーム、当該選手・指導者に厳格履行するよう周知徹底してください。

【U15 スクール中学生・インフルエンザ対策のお願い(案)】

1. 指導者・選手の原則

- (1) せき、くしゃみをする時は、マスクを装用するか、ティッシュ又はタオル・ハンカチを口に当てるとともに、周りの人を避け、飛沫を飛ばさないよう心がける。
- (2) 十分な予防措置を心がけ、通常から清潔なマスクを携行し、上記の場合を含めて必要な場合はマスクを装着する。特に電車の中や人込みなど感染の可能性の高いところではマスクを装着する。
- (3) 常に手洗いとうがいをを行うことを心がけ帰宅時は必ず実施する。及び練習前、練習後は石鹸での手洗い、あるいは手の消毒を履行する。
- (4) 健康管理を徹底し、変調のある場合は検温による体温チェックを実施する。
- (5) 風邪の症状、熱のある場合は、指定医療機関で受診、検査の上、インフルエンザに感染していないかを確認する。
- (6) 検査結果がでるまでの間は、他者との接触を避け、練習・試合への参加を見合わせる。
- (7) 感染している場合、あるいは接触者、近親、近隣者に感染者が出た場合は医師の指示に従って外部者との接触を控える。感染した場合、熱が下がって健康な状態に戻ってから2日間についても外出を控え外部との接触は避ける。
- (8) 原則として、チームのスクイズボトルは使用せず、自らが個人用の水筒・ペットボトルを持参し、対応する。また、石鹸または消毒液もできるかぎり持参する。

2. チームの原則

- (1) チームのスウィズボトルは直接口をつけて使用しないよう徹底すること。
- (2) 原則として選手が個々に飲料用のボトルを持参し、個々の選手の管理に基づいて使用すること。
- (3) チームとして手洗い用の消毒液、あるいは石鹼、予備のマスクを用意しておくこと。
- (4) 選手の健康管理を徹底する。体温計を備え、必要な場合は検温の上、平熱を上回る選手は当該選手を他者と接触しないよう徹底の上、速やかに帰宅させ、保護者と連絡を取り合って医師の診断を受けるよう指導するなど、他の選手・指導者と接触しないよう徹底すること。
- (5) また、選手指導者だけでなく、近親者、近隣者で新型インフルエンザの感染者が出た場合、及び感染者と接触した選手・指導者には一定期間は練習、試合への参加をさせないことなど2次感染の防止に努めること。
- (6) チーム内に多数の感染者が発生した場合、及びチーム内での感染が広がるなどの状況になった場合は所属協会に報告すること。

3. 大会運営

- (1) 会場には消毒液を用意し、来場者の方々には手の消毒の徹底を促す。また、体温計を常備する。
- (2) 飲料の補給は各チームに同ベンチ前に個人用のボトルを用意してもらい、選手をベンチ前に戻して選手自身の管理によって水分補給する。同時に競技委員、レフリーの方々はウォーターブレイクをこまめに採るよう指導する。
- (3) 使用ボールは試合毎に洗浄する。
- (4) 感染者、及び感染者に接触した選手・指導者を大会に参加させない。なお、チーム内で該当者が多数に及ぶ時、その後一定期間は様子を見、新たな感染者が出ていないことを確認するまで大会参加を自粛させる。
- (5) 当分の間、選手・指導者が一か所、あるいは密室などに多数集まるような行事・催事は自粛する。やむを得ない事情があるときはマスクを装着するよう徹底する。